

火打山を滑る

平成 17 年 4 月 17 日

酒井 利直

4 月 16 日（土曜日）と 17 日（日曜日）にかけて、新潟県頸城山塊の火打山（2,461m）に山スキーに出かけた。天気は快晴。相棒は例によって会社の同僚 M 君である。今回は山行の少し前に山岳会の中川君を誘ったが残念ながら都合が合わなかった。

さて私事ながら火打山をスキーで登るのは実に 35 年振りである。前回つまり学生時代の火打山登山は火打山北東の尾根(新建尾根)を登るものであり、スキーを持っていったとは言えむしろ登りに苦労していたことを思い出す。特に新建尾根のナイフリッジの上でピッケルを振るってステップを刻んでいたことなど懐かしいことの一つだ。

その頃に比べれば当然体力は落ちているが、装備類が軽くなったことやアプローチが便利になったことで往年遊んだ地域に簡単に入ることができるのは嬉しい。

今回は笹ヶ峰牧場まで自家用車で入り小屋（高谷池ヒュッテ～ただし賄いなし・素泊まりだけだが～）に泊まり、火打をアタックして山黒沢ルートというスキーに適したルートを下るといった典型的山スキーだった

4 月 16 日 晴

東京の天気予報は雨だがこの週末新潟方面は晴れているということだ。M 君 6 時の出発予定より早目に到着。5 時 50 分にマイカーで笹ヶ峰に向かう。あてにしていた杉野ノ原のコンビニが休業中で、国道まで戻って弁当を用意するという小さな齟齬はあったものの午前



10 時頃笹ヶ峰牧場に到着。実は観光協会に問い合わせたところ、笹ヶ峰まで車が入るかどうか確答がなかったのがを揉んでいたが無事到着。

10 時 20 分頃、車を笹ヶ峰に残し登山開始。

笹ヶ峰からは真直ぐ北を目指してシール登行を開始、約 1 時間で黒沢にかかる橋に到着。「滝が出ていて黒沢は危険」という先入観があり、夏道

に向かう。十二曲の急登はスキーを担いでツボ足で登る。僕は踵脇に豆が出来て足が痛く今日は遅れ勝ちだ。13 時 30 分漸く稜線（1790m）に到着。ここから稜線を忠実に辿るが、

ところどころ傾斜のある雪壁も出てきてストックの根元を掴んで登る状況だ。35年前確かこの辺りを30kgの荷物を担いで滑り降りたなぁ等と多少の感慨を持って歩く。

午後2時30分富士見平到着。



富士見平からは黒沢岳の西斜面をトラバースして1.5km程先に見える高谷池ヒュッテを目指す。少し滑った後シールで少し登り返し3時50分ヒュッテに到着した。ヒュッテは自炊だが「布団つき、プロパンガス利用可、水あり～ただし雪解け水を外で汲む～で1,000円」と中々お得である。今日は今月末の本格オープン（これは食事付）に備えて、トイレの掘り出し等に20名位の人がボラ

ンティアで小屋には入っているのでは中々賑やかだ。

5時過ぎからチビチビ酒を飲みながら、すき焼きをするがM君、僕とも今日は余り食欲が進まなかった。食事の合間に外に出ると火打山が逆光の中にピラミダルな姿を示していた。眼を西に転ずれば、白馬岳等後立山連山が良く見える。また西には高妻山・乙妻山が堂々たる山根を張っている。



4月17日 快晴 風が強い

宿泊者の中で一番早く動き出し、6時前に朝食を取り6時20分頃火打山へ向けて出発。天狗の庭から少し上ったところ（標高2,250m辺り）で、斜面がクラストしているのでシール登行からアイゼン登行に切り替える。

午前8時火打山頂上着。頂上は半分雪が飛びザレが見えている。風が激しいところなのだ。



右の写真は頂上から西方の焼山をみたところだ。ところでこの写真を撮っている時僕は帽子を風で吹き飛ばされる。そこでアイゼンのまま帽子を追いかけて急遽下ることにする。一方M君は頂上からスキーで下ってきた。結局僕は帽子を掴まえることが出来ず、火打山の肩つまり標高2,300m辺りからスキーを履く。雪面はもの凄く堅く、フリーベンチャー

の短い板には衝撃が強い。あっという間に天狗の庭を過ぎ 9 時にヒュッテに戻った。ヒュッテで荷物を整理し下山に向かう。

下山ルートは小屋の小父さん等に確認したところ「黒沢ルートが一番良い」ということなので黒沢を滑ることにする。

ヒュッテを 9 時 45 分発。まずヒュッテの北から茶臼岳と黒沢岳のコルを目指し 15 分程シール登行する。コルの東側は高度差 200m 程の斜面が黒沢池に下っている。距離を稼ぐため真直ぐ下るのではなくできるだけ南へ南へと斜滑降を続けるのがポイントだ。それでも結構水平歩行を残し平坦部からはしばらくスキーを担ぎ平坦な雪原を歩き黒沢下降点に到着。標高 2000m 地点だ。

ここからは黒沢を一気に下降する。沢心は隠れたシュルンドのリスクもあるので沢の側壁



を滑る様に心がける。沢の途中ではブロック雪崩が落ちてきそうなので休む気になれない。難所はないが標高 1,700m 近辺に滝があるのでこれは左岸をトラバースして滑る。この滝を過ぎると沢は広がり夏道との合流点も近い。漸くここで一服（左写真）一仕事終えて表情にもゆとりが出ている様だ。

実際これから先はブナの緩斜面を笹ヶ峰に

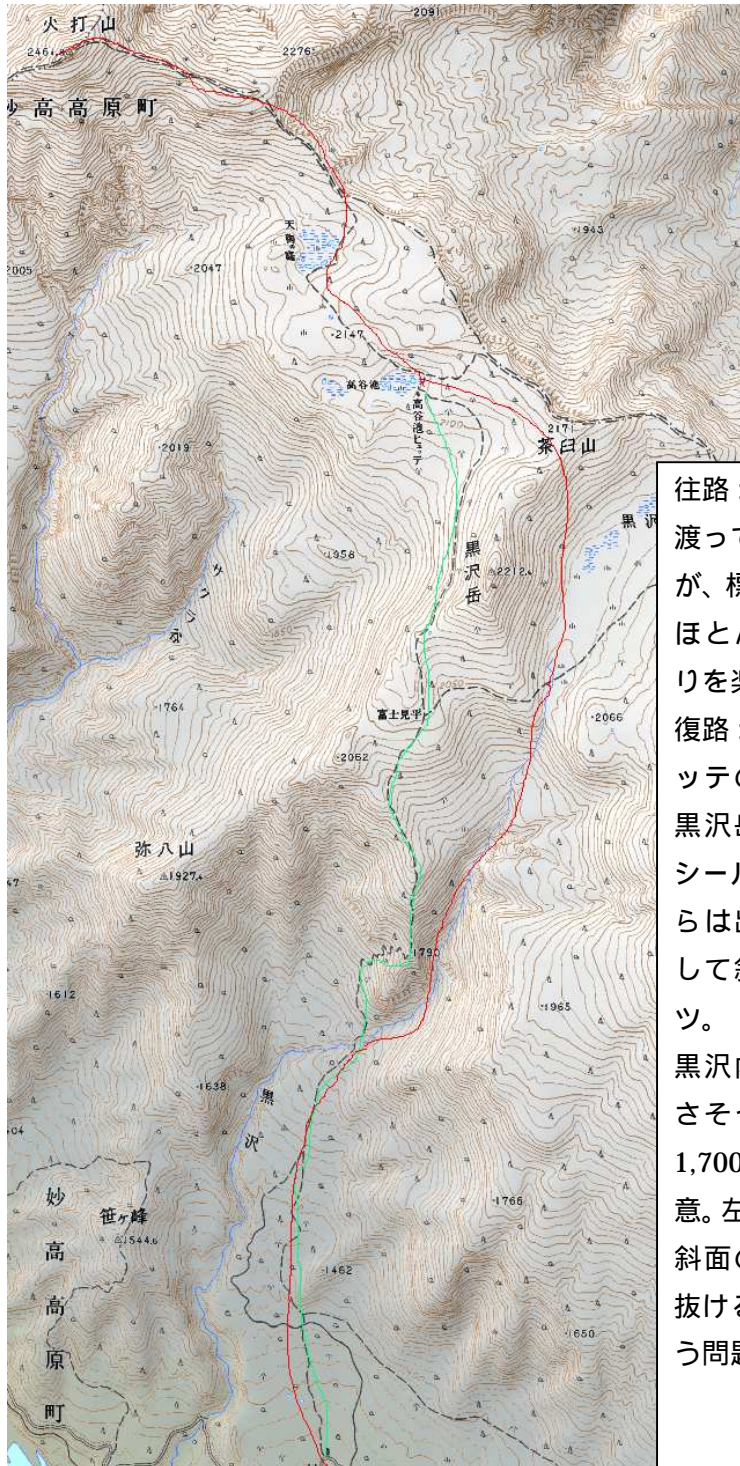
向けて滑るだけである。

午前 11 時 15 分笹ヶ峰着。高谷池ヒュッテから 1 時間半の下山時間だった。

この冬は八ヶ岳連峰権現岳や乗鞍岳に出かけたが天候等のせいで頂上に立つことが出来なかったのがフラストレーションが溜まっていたが、今回の 100 点満点の登山で溜飲を下げることが出来た。春の山スキーは本当に楽しい。

以上

主な装備：ガスコンロ（2）、寝袋（2）、ピッケル（1）、アイスパイル（1）、アイゼン、20m 補助ロープ（私用せず）、ビーコン（2）、シャベル（2）



往路：緑の線。黒沢の橋を渡ってから、夏道をたどるが、標識・赤布等人造物がほとんどなく静かな山登りを楽しむことができる。復路：赤の線。高谷池ヒュッテの北側から茶臼山＝黒沢岳のコルを目指してシール登行15分。コルからは出来るだけ南を目指して斜滑降をするのがコツ。黒沢内で迷うところはなさそうだが、一ヶ所標高1,700m付近の滝には要注意。左岸をトラバースと急斜面のショートターンで抜ける。ここが終わればもう問題はない。

